

## 同志社らしさとは何か

松 岡 敬

奨励者紹介〔まつおか・たかし〕

同志社大学長

同志社大学理工学部教授

〔研究テーマ〕機械設計、複合材料

イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」

（ヨハネによる福音書 8章31—32節）

先月雑誌の取材で早稲田大学総長鎌田薫先生、慶應義塾大学塾長長谷山彰先生と私の三人の鼎談があった。この機会を得た際に、明治維新150年の今年に、明治初期に設立された3大学のトップがどのような思いで伝統ある大学の今を語るのか、ふと興味深く感じた。江戸末期から明治初期にかけてまさに激動の時代に大学の設立を目指し奔走した3名の偉大なる人物の思いをあらためて語ることで、今の世の中に何が欠けているのか、同時に何をしなければならないのか、を知る良い機会になると思い、このような機会を得ることができたことを嬉しく思った。

残念ながら、限られた時間内で行った鼎談であったため私が語りたかったことすべてを語ることはできなかった。誠に残念であると同時に、またの機会を得ることができればと願い、鼎談を終えることになった。もちろん語りたい内容は創立者新島襄のことである。今日はその時に語りたかったことについて少し話をさせていただくことで、皆さんと共に「同志社らしさとは何か」について考えてみたいと思う。

ご承知のように、早稲田の創立者は大隈重信、慶應は福沢諭吉、同志社は新島襄である。彼らは共に違った人生を歩みそれぞれの信念をもって偉業を成し遂げたのである。共通していたのは、新政府の下での国造りには優れた人材が必要であり、高度な教育による人材育成を第一に掲げたことである。それは官制による教育に依存するのではなく、私学としての教育機関を設立することであった。そして教育こそが当時の日本にとって重要であると信念をもって取り組んだのである。あらためて話をするまでもないかもしれないが、私の視点から新島の生き方、考え方について述べさせていただきたい。

### 建学の精神「良心教育」及び「3つの教育理念」から見た「同志社らしさ」とは何か。

新島襄は、先ず、日本に同志社を設立し、良心教育を基軸とした人間教育（徳育）の大切さを唱え続け、実現させようとした。彼の思いはもちろん日本だけではなく、グローバルな視点で人間教育の大切さを見いだしていたのだ。当時の日本でこのような視点での人間教育を実行することの大切さを社会に向けて展開することは実に大変であったと思う。信念をもって、これを実現させたのは新島襄自身である。同時に同志社の教育には当初から日本の学生はもちろん海外からも学生を受け入れ、国際社会の中で活躍

できる人物を育成したいと願っていた。それは彼のアメリカでの経験（人生観を変えた貴重な経験）から生まれたのである。彼は国際社会の中の教育とは何をすべきなのかをすでに考えていた。開国間近の島国である日本で、ここまで考え行動した人物は新島襄だけではなかっただろうか。彼にしかできない事業だったのである。

その一方で、当時の明治政府は国際化の中で日本の国力を増すことを主体に、さまざまな施策を動かそうとしていた。その意味では明治政府が目指す教育とはどのようなものであったのだろうか。おそらく国力を増すために必要な人材や実務に長けた人材の育成を願っていたのではないだろうか。しかし、新島は国が望む人材つまり国力だけを富ます人材の育成ではなく、国の財産ともいえる日本国民の価値を高めること、そして国際社会の中で日本人の存在価値を高めることこそが、将来の日本、さらには世界に大きく貢献できるのであると考えていた。目の前の目的よりも将来の日本と世界に目を向けていたのである。彼はアメリカでの貴重な生活体験（人生経験）から、逆に日本人の素晴らしさを知ることができたのではないだろうか。それを肌で感じたことが大きな原動力となった。そして、日本人の価値を世界に示したくなかったのではないかと私は思っている。そのための基盤づくりとして彼はキリスト教主義による徳育を行い、島国日本から世界の日本へと導きたかったのではないだろうか。それには先ず、世界に通用する（世界で受け入れてもらえる）人材の育成が大切であり、その教育の基本になる建学の精神として「良心教育」を基盤に掲げたのである。そして教育理念として、人を敬い愛する心（キリスト教主義）、個人を大切にすること（自由主義）、広い視野で世界を見つめ理解する心（国際主義）を示した。私はこの三つの教育理念を貫き通す同志社大学の教育こそが、歴史ある同志社大学から次代の新島襄たる人物を生み出すのだと信じている。私は日本国民のみではなく世界中の多くの人々の中から第二の新島襄が誕生することを願っているのだ。

ただし、大きな事業を成し遂げた人だけが目立ち、存在価値があるというわけではない。同志社大学で教育を受けた人物は、実は社会の中でさまざまな活動（仕事）を通して多くの人々とかかわり成長し続けているのである。また、その過程で、我々同志社人は、良心教育を知らず知らずのうちに社会の中に浸透させ、拡げてきたのかもしれない。その意味では、何百万人もの人材に良心教育の大切さを教育してきたのかもしれない。あなたの傍に21世紀の新島襄がいるのだと思う。このことを深く理解してくれる人物をこれから育てていかなければならない。これこそが新島の思いであり、同志社人としての使命ではないかと考えている。

「同志社らしさ」とは一言でいえば、偉い人物になることを目指すのではなく、賢い人物であることではないかと私は思っている。社会で活躍できる人材は、自分のことだけを考えるようでは評価はされないし、絶対に成功しない。自分の良さや強みを知ることが、逆に自分の弱さもわかっている。そのような人は同時に、他人の苦しみや喜びを感じ、その気持ちを理解することができるのではないだろうか。つまり、常に相手の気持ちを理解しようとする心がなければ、社会の中で受け入れられない。まさに「隣人を愛せよ」の言葉である。そして人に信頼される人物にならなければならない。このような人物を育てるうえで、良心教育を建学の精神に掲げたのであろう。そのように私は考えている。

勿論これが良心教育だと言い切ることはできない。同時にその定義を示すこともできない。それは個人個人が長い人生を通して常に「良心とは何か」を意識して良心を醸成し、身に着けていくものだからで

ある。

「同志社らしさ」とは、このような生き方を尊び、このことを常に追い求め、その価値を実体験から得ようとする気持ちを大切にすること、ではないかと私は考えている。

### どのようにして「同志社らしさ」を醸成するのか

同志社の建学の精神と教育理念は他に類のない素晴らしい人物養成の基本理念だと私は思っている。勿論、大学4年間の在学期間でこれを理解し、体現することは難しい。先にも述べたように、良心とは何かの問いは、人間が生きていくうえで、一生絶え間なく続くのではないだろうか。同時に、その良心への思いや考え方は個人個人で異なるものであってもよいのではないだろうか。しかし、それは自分だけで大切にしておくのではなく、いつかは多くの人々にその思いや考えを伝え、その価値や大切さを知らしめる努力が必要なのではないだろうか。断言できるのは、同志社大学で教育を受けている期間だけで、この教育（人間教育）を身に着けることはできないし、同志社らしさはつかみきれない。つまり、社会人になった後も、人物を養成するための努力が大切である。人材育成は途切れることなく、一生続くものである。そして人は常にその学びの喜びを知ることで豊かな人生を歩み続けなければならない。そしてこれまでに経験したことのない苦しみに遭遇した時、人は何を考え、どのような行動をとるのか。人は初めての経験から多くのことを知り、学ぶことになる。だからこそ社会に出てからも我々は学び続けなければならないのである。

このような人材育成は社会にとって大きな財産となるはずである。今だからこそ、同志社が培ってきた校祖新島襄の人物養成に対する思いを、社会に広く受け入れていただけるように、我々同志社人は努力しなければならないと考えている。

私は、校祖新島襄の生き方や考え方は現在でも十分通用すると考えている。彼のような生き方や考え方ができる人物を養成することが同志社の役割であり、社会から同志社が期待されている大きな理由であると思っている。社会的価値の高い人物とは、常に社会の変化に対して敏感であり、今、しなければならないことは何かを判断し、実行できる人物だと思う。新島が生きた幕末から明治への日本の大きな転換期において、彼はしなければならないことは何かをしっかりと考え、誰もが考えもしなかったことを自ら行動し、実現させた人物だった。このような事業（彼の夢）を成し遂げるには、まず自由に物事を考える環境を人々に与えなければならないだろう。その環境の中で、今、自分がしなければならないことを見いだすこと、つまり自ら見つけ出す力を養うことが最も大切であることを再度認識しておかなければならない。この力を養った人物が、グローバル化をはじめ多様な現代社会において活躍できる人物に成長するのだと考えている。

新島の生き方・考え方の素晴らしさとその凄さは、年齢を重ねるごとに益々増殖していく。それは社会の中で自分という存在を意識すればするほど、彼の偉大さ、大きさを感じることになる。今、すぐには同志社の素晴らしさを判断することはできなくても、同志社で学ぶ過程で、そして卒業後も新島と共に学び続けている自分を感じることで、人は常に成長し続ける。これが、まさに同志社が目指す人間教育である。新島の生き方や考え方から生み出したこの人間教育が、同志社らしさを感じる同志社人として社会から高く評価され続けるのである。

### 社会とともに人を育てること

「社会とともに人を育てる」という視点に立って、教育機関と社会（たとえば大学と企業など）がともに人材を育成する積極的な取り組みが重要であり、この取り組みは、日本はもちろん世界にとって大きな財産になるだろう。

同志社大学の建学の精神は「自らの良心に従い、成すべきことを果たす人物の育成」、いわゆる「良心教育」であり、この教育を通して人材育成に取り組んでいる。日々の暮らしの中で人を思い、絆を深め、自らの信念に基づき、日本さらには世界に尽くす逸材を育てようとあらゆる努力をしている。これは他に類を見ない人材育成の基本理念である。先ほども述べたが、「良心」とは何かの問いは、人間が生きていくうえで一生続くものである。

混沌とした現代だからこそ、この「良心」を繰り返し自己に問い、そして自分の考え方や生き方を探り、これを遂行するために欠かせない的確な判断力と果敢な実行力を培うべきである。

今、私は「良心教育」を基本に教育機関と社会が積極的に人材育成に取り組むことが、この混沌とした社会からの脱却に繋がる特効薬だと考えている。そして、このことが社会に発信しなければならない「同志社らしさ」であり、あえて私は「同志社良心」と言いたいのである。

最後に、3大学トップの鼎談に戻るが、この鼎談の後思いついた言葉がある。「明治維新150年 ―新たな大いなる幸福の島から地球へ―」という言葉である。

とりわけ「新たな大いなる幸福の島」という言葉は、新島、大隈、福沢の名前の一文字を組み合わせる思いついた言葉である。明治初期に大学を設立しようとした彼らの共通した思いがこの言葉ではなかったのだろうか。そして今は「新たな大いなる幸福の島から地球へ」と展開できるよう、それぞれの大学は創立者の思いを大切に組みこんでいかなければならない。このことを心に留めておきたい。

2018年4月18日 京田辺水曜チャペル・アワー「奨励」記録